

第九回 「知られざる大国ウクライナ」

岡部 芳彦

4月のコラムは毎週4回に渡って、3月の後半に2週間にわたり出張した中東欧の大国ウクライナについて書かせていただきます。

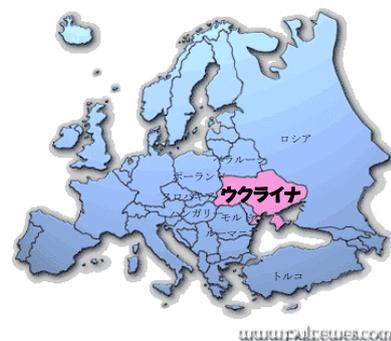
日本の隣の国と言えば、韓国や中国が浮かぶ方は多いでしょう。また台湾やインドネシア、北は我が国とは領土問題が存在するロシア、また遠くアメリカも隣国と言えるでしょう。では、隣の隣の国と言えはかでしょうか？比較的近い国のように聞こえますが、名前がすぐに浮かぶ方は少ないのではないのでしょうか。ウクライナは距離的には遠いものの、日本にとってロシアを跨いで隣の隣の「近い国」です。

イギリス経済史・経営史が専門の僕ですが、大学時代にモスクワ大学に留学しロシア語を学んだことがあります、5年前から大阪日本ロシア協会の理事をさせていただいています。ロシア、とくにウラジオストックなどの沿海州に行くことも増えましたが、旧ソ連で2番目に大きな国はどこか気になり、結果ウクライナに「ハマって」しまい、最近では年に2回ほど訪れるようになりました。ウクライナは日本の1.6倍の国土を有し、人口も4600万人を誇る日本ではあまり知られていない大国です。以前はロシアと領土問題もあり、同じくロシアの隣国日本にとっては、その動向はヒントになることが多いです。

チェルノブイリと福島原子力災害で共通の経験を持つことをご存じの方も多いかもかもしれません。ただ日本ではロシアが起源と思われるけどウクライナのものがたくさんあります。例えば料理のボルシチはウクライナの伝統料理ですし、独特の舞踊で知られるコサックの起源もウクライナにあります。先日お亡くの横綱大鵬のお父様も実はウクライナ人です。

ウクライナは驚くほどの親日国です。首都キエフには「スシ」と看板を掲げた寿司レストランが500軒以上あると言われていています。日本語が選択科目にある小学校もあり、松尾芭蕉が中学の教科書で取り上げられています。これほど日本を相手は知っているのに残念ながらウクライナについて知っている日本人は多くありません。日本に親しみの感情を持ってくれる国とはもっと手を携えていくべきではないのでしょうか。

日本とウクライナの関係、とくに関西でもっと深められないかと本当に微力ながら頑張っています。昨年は本学経済学部への支援を受け、多くの皆様のご協力をいただいた結果、「第3回日本ウクライナ地域経済・文化フォーラム」を日本で初開催することができました。パネリストとしてウクライナからはボリス・コージン元最高会議（国会）議員はじめ3名、日本側は西村康稔衆議院議員（現：内閣府副大臣）、楠本祐一外務省駐関西大使（現：宮内庁掌典職・掌典次長）などのご参加をいただき、活発なご議論をいただきました。



ウクライナの位置

（隣国のみ名称記載。）

画像提供: <http://www.failteweb.com/>



第3回日本ウクライナ地域経済・文化フォーラムの様相（本学有瀬にて）。

今回の訪問では、主にキエフ、ドネツク、ドウルジュコフカ、マリウポリ、リヴィウの5都市を周り、現地情勢の調査や、さまざまな人たちの意見を聞くことによって、交流と理解を深めました。

まず、ウクライナ国立農業科学アカデミーにご招待いただき、「日本経済の強さの秘密」というタイトルで講演させていただきました。日本の中小企業による部品製造、中間財の輸出、TPP と農業など必ずしも自分の専門ではない内容もありましたが、拙いロシア語ですが直接話したのがよかったのか議論も盛り上がり、僕も非常に勉強になりました。参加者からの質問も、特に農業に関して、日本の農協の仕組みなどを非常に詳しく知っている研究者もいて驚かされました。

ウクライナ最高会議（国会）では、野党の全ウクライナ連合「スヴォボダ（自由）」党首オレーフ・チャフニボク最高会議議員と会談しました。昨年の選挙では彼の政党は台風の目となりウクライナの『コレスポネント』誌で「パーソン・オブ・ザ・イヤー2012（今年の顔）」に選ばれました。民族主義政党の党首ですので最初は少し緊張しましたが、会談自体は非常に和やかに進みました。日本とウクライナは戦略的パートナーだとのご見解をうかがい、さらに関係を深める具体的な方法を話し合いました。僕が来るということで、急に日本に興味が出たそうで、前日に日本の国会へ行く議員団の一員になることを届け出たそうです。僕との出会いで、日本人と日本の印象が少しでもよくなったことを祈るばかりです。

翌日は同じくウクライナ最高会議内でマリア・マティオス議員とお会いしました。彼女はウクライナの現代文学を代表する作家で、現代文学の最高賞タラス・シェフチェンコ賞を2005年に受賞しました。知名度抜群で昨年の国会議員選挙で当選を果たし、ボクシングの世界チャンピオンのヴィタリ・クリチコ氏が党首を務めるウダル党のNo. 2としてご活躍です。安倍公房の大ファンだそうで、三島由紀夫の自分なりの評価とかお聞きしているとあっという間に一時間が過ぎました。彼女も日本に来られるとのこと。また、ウクライナ語をご専門の大家の先生方に彼女の本の翻訳のご相談をさせていただいており、そのお話もさせていただきました。マリアさんはお洒落な上に、お話もお上手でとっても素敵な女性でした。

次回は、第二次大戦後、ソ連によりウクライナに抑留された日本人の慰霊に南東部のドウルジュコフカという街を訪問してきましたので、それについて書かせていただきます。



ウクライナ国立農業科学アカデミーにて講演。



チャフニボク・スヴォボダ党首と語り合う。
（ウクライナ最高会議内にて）



マリア・マティオス最高会議議員から
お話をうかがう。